

コンサートやイベントなど不特定多数の来場者から不審者を見つけ利用者の安全を確保

世界的にもテロの対象がソフト・ターゲットへ移行する中、不特定多数の来場者があるコンサートやイベントはセキュリティのレベルアップが必要になります。

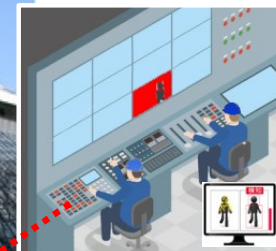
ポイントは、多数の来場者からいかにテロリストや不審者・危険人物を見つけるか。DEFENDER-Xは、人の精神状態を分析しようとした不審者を事前に検知。対象を絞り込むことが可能になるため効率よく重点的な警備対策がとれます。

カメラ映像を解析し、2～5秒で不審者か否かを判定します。

検知後、モニターで赤枠表示するほか、不審者のキャプチャー画像のメール送信も可能。

不審者検知時の警備員の配置・対応方法の整備により、コスト抑えつつ警備レベルをUP

パソコン1台で2台のカメラが稼働するため、施設やイベント規模に応じた導入が可能



不審者を検知を
担当者に連絡



ソチオリンピックでは、検知した人の**92%**が不正入場者

ソチオリンピックでは、全17パビリオンのすべての入場ゲートに設置。ピーク時は1日で約12万人入場し、期間中2600人が不審者として検知されました。そしてその内の92%が、禁止薬物・酒・火薬等の持ち込みやチケットを持たない等の不正が見つかり入場拒否となりました。
※2018年平昌オリンピックでも採用予定です。

不審者を事前検知する 次世代セキュリティシステム

DEFENDER-X

ディフェンダーXがわかる動画公開中



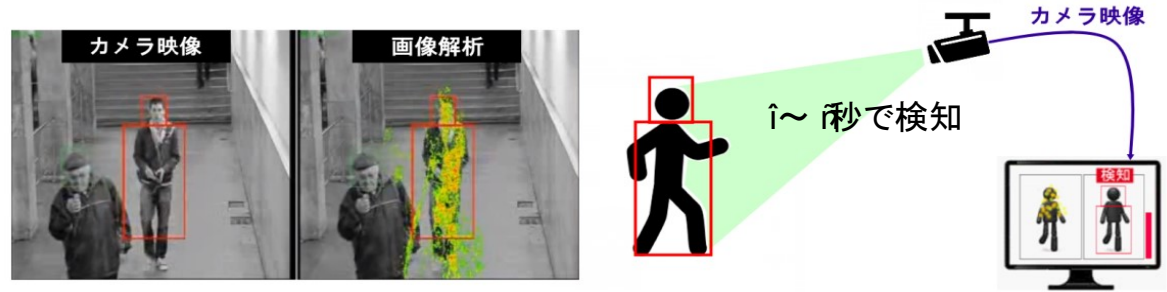
DEFENDER-Xは、犯行に及ぶ前の特有の精神状態をカメラ映像から分析し、不審者を事前に検知する、まったく新しい防犯システムです。事前のデータ登録も必要無く設置後すぐに効果を発揮。

人は肉眼ではわからないレベルで振動しており、その振動は精神状態にリンクしています。それを解析する特許技術(ロシア・ソチオゾ社)により、真の防犯システムが完成しました。

録画映像の事後解析で犯人特定 J M

ディフェンダーXは、不審者の事前検知だけでなく、録画された映像を解析し不審者を検知することも可能です。犯人逮捕に寄与するケースもあります。

監視カメラ映像から精神状態を分析し不審者を事前に検知



振動からストレスや恐怖、攻撃性データを検出すると“不審者と判定”



ソチオリンピックや2015年の伊勢志摩サミット、空港等で実績

ソチオリンピックでは、全ての入場ゲートにディフェンダーXが設置され期間中、2600人を不審者として検知。そのうち92%が危険物所持や入場券のない不正入場者でした。日本でも2015年の伊勢志摩サミットやラグビーの天覧試合の警備などで試験運用されたことがマスメディアでも紹介されています。